熊本大学

英語教育と e-Learning

安浪 誠祐（大学教育機能開発総合研究センター） 2005 年 2 月執筆　2008 年 3 月追記

熊本大学における CALL 学習支援システムとしての LMS (Learning Management System：学習管理システム)(WebCT)の活用と地域貢献特別事業として実施した高大連携プロジェクトについて述べる。

1. ALC NetAcademy と LMS の活用

本学では、2001 年度に ALC NetAcademy が 1 年全学部の半期必修科目の教材として導入された。CALL 教室(60 端末)3 室が整備されると共に、2001 年度後期に CALL 担当教員 2 名が、また、2002 年度に担当職員 1 名が新規採用された。前学期・後学期毎に約 900 名の学生が講義を履修しているが、担当教員 1 名に対して学生 50 名で 1 クラス編成となっている。「スタンダードコース」を教材としており、「リスニング力強化コース」と「リーディング力強化コース」のそれぞれを 60%以上学習することを課題とする学習ノルマを設定している。その後 2007 年度の ALCNetAcademy2 導入に伴い、「スタンダードコース」のコンテンツが増えたため、学習ノルマを 40%と変更した。また、担当教員の指示によって学生は「TOEIC 演習テスト」を受験することになっている。90 分間の授業では ALCNetAcademy 学習に約 60 分程度、教員選定の副教材学習に約 30 分程度を充てている。学習ノルマ達成のため、CALL 授業のない時間帯は、自習のために CALL 教室が学生に開放されている。CALL 教材の学習は、CALL 教室だけでなく学内に設置された 900 台余りの学生用 PC 端末から学習可能である。学外からの学習を希望する学生の声もあり、2004 年度から学外からの教材へのアクセスを可能とする VPN(Virtual Private Network）接続サービスを開始した。アルク教育社との間で覚え書きを取り交わした後、学内スタッフが VPN 接続サービスのためのサーバ設定を行った。その後、統合認証システムの導入により、学生は PC 端末の設定を変更することなく学外からアクセスすることが可能となっている。また 2003 年度から、e-Learning システムの一つである LMS (WebCT)を用いた学習支援を行っている。このシステムを用いて、Web メールによる質問受付・回答・連絡、小テスト機能による副教材の提供、更に学習履歴の表示などを行っている。学習履歴表示システムは我々が独自開発したものだが、学習進捗状況や学習時間が学生個人のものだけでなく履修者全員の状況もドット(点)としてグラフに表示されるため、学習者は各自の学習状況を把握することができる。教員はこのグラフをもとに学生一人ひとりに対する指導に役立てることができる。2004 年度から成績評価の一部に外部試験の成績を導入することになった。他に外部試験(TOEIC, TOEFL, 実用英語検定)や短期留学による単位認定制度もあり、学生は以前にも増して英語運用能力向上を目指して意欲的に CALL 教材学習に取り組んでいる。